

令和 5 年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究
分担研究報告書

急性期病院における外科予定入院と認知症の調査

研究分担者 亀山祐美 東京大学医学部附属病院 老年病科
小島太郎 東京大学医学部附属病院 老年病科
八木浩一 東京大学医学部附属病院 胃食道外科
松原 全宏 東京大学医学部附属病院 救急部

研究要旨

大学病院での食道癌、胃癌予定手術入院は、認知機能が保たれている患者が多く、認知症の診断を受けているのは 3%であった。併存疾患もありポリファーマシー患者も多かった。認知機能が正常範囲でも術後せん妄は胃癌 13%、食道癌 24%に出現していた。術前の認知機能によって手術方法を変更していることはなかった。

A. 研究目的

認知症患者の併存疾患の検査や治療は、非認知症患者と比べて、思うように進まない、過少治療、過大治療ではないかと不安に思いながら診療している。食道癌・胃癌手術入院からみた認知症の合併頻度、入院中のせん妄、認知機能と手術の術式が変わるか、調査をすることを目的とした。

B. 研究方法

2022 年 10 月～2023 年 12 月までに東大病院胃食道外科に食道癌、胃癌手術目的で入院した患者の入院時の高齢者総合機能評価、疾患数、服薬数、入院中のせん妄の有無、入院中の最大CRPの調査を行った。胃食道外科および救急部(ICU)カルテからデータを取得した。

C. 結果

合計 60 名
食道癌 29 名(76%男性平均 76 歳)
胃癌 31 名(71%男性平均 75 歳)
開腹手術 19 名、縦隔・腹腔鏡 41 名
併存疾患数 3.4 ± 2.2
入院時薬剤数 5.5 ± 4.0

せん妄なし 49 名(男性 73%平均 75.6 歳)

せん妄あり 11 名(男性 73%平均 75.5 歳)

食道癌 7 名、胃癌 4 名

せん妄	MMSE	入院日数	MAXCRP
なし	26.6 ± 3.4	25 ± 20	13.9 ± 7.3

D. 考察

60 名中認知症と診断を受けている患者は 2 名(MMSE14 点、21 点)のみで、平均 MMSE は 26.7 点/30 点満点(23 点以下が認知症レベル)とほとんどの患者が認知機能が保たれていた。

それにもかかわらず、術後せん妄は胃癌 13% 食道癌 24%に出現していた。

当大学病院に紹介される食道癌胃癌患者は、平均年齢 76 歳、併存疾患 3.4 種類、薬剤数 5.5 種類と認知機能低下患者よりも併存疾患が多く、多剤併用の患者が多かった。

入院による影響を見るべく 20 名にのみ退院時の MMSE が実施できたが、入院時と変化が見られなかった。ただし、協力的な対象者にしか退院時 MMSE は実施できず、せん妄で実施できなかった 2 名、食道癌術後の痰や嘔声のため途中で拒否された対象者が 3 名いた。

E. 結論

当大学病院での食道癌、胃癌予定手術入院は、認知機能が保たれている患者が多いが、併存疾患もありポリファーマシー患者も多かった。術後せん妄は胃癌 13%、食道癌 24%に出現していた。

当初、大腿骨骨折患者の術前認知機能検査と退院時認知機能検査の比較も予定していたが、当院は大腿骨骨折ボードがあり、受傷の緊急入院から 2 日以内に手術が行われることが多く、術前の心理検査が間に合わず、実施を断念した。

G. 研究発表

1. 論文発表

Kojima T. Managing geriatric syndromes: Necessity of pharmacists' involvements. Geriatr Gerontol Int. 2024;24(2):244-245.

2. 学会発表

1.日本消化器外科学会総会 78 回 WS13-5(2023.07)超高齢者胃癌に対する手術適応と術式選択 超高齢者胃癌に対する術式

LECS は選択肢となるか. 浦辺 雅之(東京大学 大学院消化管外科学), 奥村 康弘, 岡本 麻美, 八木 浩一, 山下 裕玄, 瀬戸 泰之.

2. 19th EuGMS Congress. Helsinki, Finland, 2023.9.20-22.Taro Kojima, Masahiro Akishita. Comorbid conditions which exacerbate dementia: Hip Fractures and PIMs. (ポスター発表)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3.その他

該当なし